

献血者確保対策について（日本赤十字社の取り組み）

1. 広報資材の作成

(1)パンフレット・ポスター等

①血液事業をわかりやすく理解していただくため、パンフレット「愛のかたち献血（小・中学生用及び一般用）」を配布。

・平成28年度：小・中学生用 87,300部、（一般用 115,000部）

②高校生・大学生をはじめ若年層に受け入れられやすい内容の情報誌「献血 Walker」を配布するとともに、全国のビデオレンタルショップ（TSUTAYA）にも設置。

・平成28年度：2,000,000部（10月、3月の合計部数）

③献血啓発用ポスター「通年」用をはじめ、「愛の血液助け合い運動月間」や「はたちの献血」キャンペーン等のポスターを都道府県及び関係各機関に配布

・平成28年度：通年用ポスター 15,000部

世界献血者デー 4,400部

愛の血液助け合い運動月間 28,000部

(2)映像

①「献血セミナー用DVD」の作成

受血者の顔が見える取り組みの一環として、輸血経験者が献血の必要性を訴え献血を理解いただく献血セミナー用DVDを作成し、献血セミナー等において活用している。

②「インフォグラフィック動画（1分バージョン、3分バージョン）」の作成

短時間にわかりやすく、献血を視覚から訴える「インフォグラフィック動画（1分、3分）」を作成。ホームページで視聴いただくことはもとより、各施設や献血セミナー等あらゆる場所で活用。

・平成28年度は、line動画で14万回再生を記録

2. 各種事業

(1) 若年層を対象に「LOVE in Action プロジェクト」や「はたちの献血キャンペーン」を通して全国統一のキャンペーンを展開し、関係団体との連携を図りながら献血推進を行う。

○平成29年6月6日：「LOVE in Action Meeting」を実施（東京国際フォーラム）

・来場者：約4,100人（応募者：約40,000人）

・ニコニコ生放送の活用⇒約40,000アクセス

・露出媒体：497（テレビ16番組、新聞20紙、Web461サイト）

※日本高校ダンス選手権新人戦 LOVE in Action!特別賞 受賞3校がダンスを披露

（大阪府立摂津高等学校、豊川高等学校（愛知）、千葉敬愛高等学校）

(2) 大学生を中心とする学生献血推進ボランティアの活動を支援し、大学献血の実施回数の増加と、同世代の目線から若年層献血の推進を展開する。

さらに、平成28年度より新たな取り組みとして、学生献血推進ボランティアが自ら講師を務め、所属する大学等で献血セミナーを実施。

・平成28年度：実施回数95回、約3,000人の学生が受講

(3) 将来の献血者（小・中学生及び高校生）確保に向けた取り組み

①献血セミナー

「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」に「献血の制度について適宜触れること」が盛り込まれ、また、平成24年から厚生労働省から文部科学省へ協力依頼を行った結果、「学校における献血に触れ合う機会について」が発出されたことから、今後も、高校生はもとより将来の献血者群である小・中学生等を対象とした献血セミナーを学校へ出向いて積極的に実施する。

・平成28年度：1,772回実施（小学校～一般含む）

②「赤十字・いのちと献血俳句コンテスト」

文部科学省及び厚生労働省の協力を得、学校や家庭において命の尊さや献血の大切さ等について考える機会を創出するため、「赤十字・いのちと献血俳句コンテスト」を実施。

・平成28年度応募数：245,884句

（募集ポスター13,000部、チラシ384,000部）

(4) 複数回献血クラブ会員の普及拡大

複数回献血者の増加を図るために、複数回献血クラブ会員を対象として、現行の献血カードに加え、新たなデザインの献血カードを提供している。（平成23年10月3日全国導入）

特に、若年層の会員拡大を推進し、新たに複数回献血クラブに加入した会員に、一年間に再度献血をしていただくための取り組みの強化と併せて若年層献血の向上を図る。

(5) 安心して献血ができる環境スペースの周知

献血ルームについては、平成 22 年 9 月に策定された「献血ルーム施設整備ガイドライン」に基づき、20 代・30 代の子育て世代にも、積極的に献血に協力いただくための託児スペース等を充実させてきたため、HP 等を活用した献血環境の周知を図る。

(6) 献血者の安全対策等

採血時または採血後の副作用発生状況を把握していく。また、採血副作用の種類・発生頻度、献血後の注意事項等の献血に関する必要な情報について初回献血者を始めとした献血者へ周知を図り、採血後の休憩を十分とって頂く等の未然防止策を実施する。

3. その他

(1) 年代別献血者数の目標設定(調整中)

近年、輸血用血液製剤は安定的に確保できているものの、若年層献血者数の減少に比例し、総献血者数に占める若年層献血者の割合も減少している。

そこで、若年層献血者数の増加によって、安定供給を確保しながら年代別構成比率の均一化を図るため、以下により年代別献血者数の目標数を設定することとしている。

①各赤十字血液センターが、各都道府県の血液事業担当者と10代・20代・30代の年代別献血者数の目標数について前年度を上回るよう協議し、地方自治体と連携しながら若年層献血者の確保に取り組む。

②日本赤十字社においては、全国の若年層献血者確保の進捗状況を週単位で確認する。

特に、10代の献血者確保において著しく目標を下回っているような場合、当該血液センターにヒヤリングを行う等の対策を講じながら、目標数を達成するよう努めることとしている。

(2) 各都道府県血液センターにおける主な取組

①若年層を対象とした対策

・小学校高学年を対象に血液センターの施設見学や移動献血車の体験試乗など「献血おもしろセミナー」を実施し献血に関する興味・関心を持ってもらう。

・若年層に高聴取率を誇るラジオ番組とタイアップし、パーソナリティがリスナーへ献血に対する呼びかけ等を行う。

・県内の大学での学内献血実施時のキャンペーンにあわせ、献血協力者に対して友達へのメール配信を依頼し、献血の協力を呼びかける。

・企画の段階から学生が主体となる参加型のイベントを開催する。

・卒業という記念日を献血の契機と位置付けた献血セミナー等を実施して、400mL 献血主体とした献血推進を行う。

- ・スポーツ団体とのコラボキャンペーンにより、大会会場等での献血実施・広報等やスポーツ団体を通じた献血セミナーを展開し、若年層を主に対象とした献血推進を図る。
- ・若年層に人気のある謎解きイベントやスマートフォンアプリを利用した SNS を通じ、若年層に対して献血の知識を得る機会を作り献血の協力を図る。

②企業等における献血推進対策

- ・社会貢献活動をしている企業をHP等により把握し、当該企業への献血協力依頼を行う。
- また、グループ企業で献血をしていない企業を紹介してもらうなど、効果的な働きかけを行う。
- さらに、3年以上献血協力が遠ざかっている企業に再度献血への協力を依頼する。
- ・CSR活動の推進企業にSNSを活用し、献血協力の案内を配信する。
- ・各企業の新人職員研修会、建築現場の職員に対する研修会である安全大会等に出向き献血推進セミナーを実施する。
- ・管内の保健所主催による企業の献血担当者に対して研修会を実施する。
- ・献血車の配車が難しい事業所に対し、献血ルームでの献血協力依頼を行う。
- ・ブロック血液センター施設見学を勧誘し、今後の企業献血の中心となる社員に献血の理解を深めてもらう。

③複数回献血者の確保対策

- ・1年以上献血に協力いただいていない方に依頼要請を行い複数回献血者への誘導を図る。
- ・大学内で実施する献血会場で専門の職員を配備し、複数回献血クラブ新規会員を勧奨。
- ・複数回献血クラブ会員に対して、健康管理意識向上のための講演会や「ヨガ教室」を開催する等、会員の複数回献血の促進及び新たな会員の確保を図る。
- ・献血ルーム等での献血者に対し、誕生月に依頼ハガキを郵送し複数回献血を推進する。
- ・固定施設(献血ルーム等)の献血者について自筆でハガキの宛名を書いてもらい秋・冬季にそのハガキを発送し、献血協力を依頼する。
- ・固定施設(献血ルーム等)の献血者について、予約献血を推進し、年間複数回の献血協力を依頼する。